

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ②⑨

『人を愛するということは知らない人生を知ること』

今月の言葉 『あなたの知らないところにいろいろな人生がある。
あなたの人生がかけがいのないように
あなたの知らない人生もまたかけがえがない』

(灰谷健次郎)

今年、沖縄県が本土に復帰して五十年の年です。沖縄の戦争の記録を残そうと様々な努力が続けられています。NHKの連続テレビ小説『ちむどんどん』も沖縄の心、沖縄の人たちの思いを伝えてくれています。何事にもポジティブな主人公暢子の生き方に励まされます。私たちは沖縄戦の悲惨な歴史を心にとどめねばならないと思います。

一冊の本を思い出しました。私が好きな作家灰谷健次郎の『太陽の子（てだのふあ）』です。この本は、沖縄出身の両親にもつ少女（ふうちゃん）が父の心の病をきっかけに、沖縄の歴史・沖縄戦の悲惨さについて知り、沖縄の人たちの心の傷に気づいていく話です。15年戦争（太平洋戦争）で沖縄は島全体が激しい戦場となり、国内最大の地上戦が行われました。生き残った人たちがどんな思いでその後の人生を生きたのかを描いた作品です。この物語は演劇にもなり、広く知られています。是非一度手にとってほしい本です。

灰谷健次郎さんは、子どもたちに詩や作文の指導を一生懸命行った小学校の先生です。小学校の先生と子どもたちの学校生活を描いた『兎の目』『きみはダックス先生がきらいか』『プー一等あげます』、障がいのある主人公の視点で、心にうつる情景を描いた『だれもしらない』（絵本もあります）などたくさんの作品があります。読書感想文の指定図書になった本もありますので、図書館や図書室で見つけてほしいと思います。

私は『太陽の子』に夢中になり、教師となった2年目には子どもたちと戦争の聞き取り学習を行いました。四十年前のことなので、まだ戦争を経験したおじいさんやおばあさんがご健在でした。長崎での被爆体験をはじめ、名古屋空襲や豊川海軍工廠の勤労働員など貴重なお話をうかがいました。その学習のまとめとして、学習発表会で学習劇『太陽の子』を行いました。私も若かったので、自分の力足らずを忘れ、メッセージ性の強い脚本を書き上げました。その後、灰谷さんには絵本の研究会で何度か講演をお聞きしました。

沖縄本土復帰五十年のニュースを見て、灰谷さんの言葉と本を思い出しました。八月は平和について考える貴重な月です。

令和4年8月8日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視